町工総会ニュース vol.3　組織内情報

【発行】非営利一般社団法人 町の工務店ネット　〒432-8044 静岡県浜松市中区南浅田2丁目2-1　tel.053-570-9001

「わが社の『定番』ここにあり」というものへ!

開催地 静岡県浜松市～袋井市

町の工務店ネット全国総会 in 遠州　2019年 2／27(水)～28(木)

【参加費】30,000円／人(税別)＊
＊バス・資料・会場・懇親会・宿泊・講師・講師交通費等含

「定番」は、どこにある?

「定番」という言葉を聞いて、多くの工務店の頭に浮かぶのは、「手頃なコスト」による「売れ筋の建物」ということでしょう。しかし、今受けを追っているうちは「青い鳥」は見つからないというのが現実です。「定番」は、その工務店の顔になるものです。バラバラに注文住宅を建てているだけでは、この工務店でなければ、というものをなかなか築けません。
その住宅を見るだけで、○○工務店だとわかるもの、好感を持てるもの、それを表す建物が「定番」です。そのように考えると、自信を持って、これが「わが社の『定番』ここにあり」と、どれだけの工務店が言えるでしょう。嘘だと思うなら、街の中の住宅を見て回ると分かります。ハウスメーカーの建物でさえ、どれがどこの建物なのか、さっぱり分かりません。

鹿児島・シンケンは、日本一の「定番」工務店

私は、鹿児島・シンケンを、日本一の「定番」工務店だと評価しています。年間百軒建てられる建物は、「定番」以外見つかりません。迫英徳氏が「定番」に目覚めた最初から現在までを見てきた私は、その徹底ぶりに驚くばかりです。昨年、町工ネットに参加いただき、今、空気集熱式ソーラーの絵本を一緒に作っています。シンケンは、これまで建てられた1500戸の建物すべてに、このソーラーを導入しています。
建物を見て回って分かったことは、土地の読み込みとプラン作成に対しての踏み込みが、実に深いことでした。

長野県飯田の新井優さんの仕事から

“住まいマガジンびお(www.bionet.jp)”の「住まいのグラフィティ Vol.40」(掲載日・昨年10/19)に、「南信州の平屋」が掲載されました。飯田の設計事務所「新井建築工房+設計同人NEXT」による仕事です。
昨年末に、正直で、明快な空気集熱式ソーラーの建物を見て欲しくて、絵本の絵を描いていただく、はやまめぐみさんを、この建物にご案内しました。
設計者の新井さんによる「住まいのグラフィティ」の建物の案内は、「ご夫婦二人の平屋の家。リビングダイニングを中心として、書斎リビングや和室、インナーデッキ等をゆったりと繋ぎ、それぞれの居場所が曖昧に成立していく。個人と夫婦生活の間を行ったり来たりするプランを目指した」というもので、建築地の飯田について「気候が厳しく、夏40℃、冬場の晴天率は高いが－10℃を記録する。都合、50℃の気温差に対応する家造りが求められる」場所だと述べられています。
訪問したのは、暮れも押し詰まった12月15日でした。その朝は外気温氷点下1℃でした。室温は、朝18℃あったとのこと。雪が降ったりして寒い日は、薪ストーヴを焚くということでした。
私は、これまで何軒か新井さんのお仕事を見ていますが、けれんがないというか、どの建物もそんなふうで、さっぱりした作風です。
工務店も、こんなふうにやれたらいいな思いました。「定番」のあり方を教えてもらいました。

「定番」とは、その工務店の顔をつくることだ。

自然素材の注文住宅というだけでは間口が広すぎて、
お客さんとの打ち合わせに時間がかかり、非効率的だった。
そこから無意識に定番を形成しようとしたのだと思う。
自社のオリジナル住宅CAN・BOXと、
その進化形だと考えているびおハウスHをベースに、
現代町家や**町工で触れた住宅の要素を取り組み、**
自社の定番が構成されている。
（佐賀県／住工房プラスアルファ）

奇抜なことは定番にはなりえないと考えていて、
「とがっていない住まい」が定番です。
切り妻・パッシブ・自然素材という要素を使い、
人と人との価値観をうまく合わせることを意識して、
新しいけれど懐かしい住まいづくりを
目指して取り組んでいます。
（大分県／木楽舎 あんどう住宅設計室）

秋山東一さんの
フォルクスハウスを
原型としたものを、
自社なりに
煮詰めていったもの
ですね。
（兵庫県／プレスト）

いままでいろいろなものを見て学んできたが、
そっくり同じにはなれるわけがないですよね。
今は、あえて見ないようにして、
自分のやりたいようにやる、
これがイシハラスタイルだ、というものが、
ようやく作れるようになってきました。
もちろん、いろいろ見るのも大事なんですけど。
今度、水田さんのところに見に行きます。
（愛知／イシハラスタイル）

ハウスメーカーではお金の話しかしないと、
うんざりしてきたお客さんに、
ものづくりの話、暮らし方の提案をすると、
目を輝かせます。
さらにOBさんの話を聞いて、
興味を深めます。
お客さんへのアプローチにも定番を
見出せるのではないでしょうか。
（広島県／大喜）

弊社の推奨グレード「キノイエ」では、現代町家の美しいスタイルを活かし、
小さくつくって大きく暮らす家が定番です。
趙さんのデザインコードに統一された、片流れの美しい屋根、
オリジナルピッチの越後杉など、このグレードには競合が存在しません。
（新潟県／カネタ建設）

伝統工法に学び、
地元の木、土、紙、畳、職人を使い、
陰影豊かなデザインを取り込むこと。
それでいて現代的な温熱環境も持たせること。
それが地域の定番になると考えています。
（福岡県／建築工房悠山想）

店舗の仕事で培った経験もあり、
ファサード的にはしっかりと自社の定番を
作ることができているけれど、
性能面ではまだ確立していません。
日照の少ない出雲だけれど、
びおソーラーやパッシブ冷暖など、
いろいろと模索をしている。
（島根県／建装）

まだまだ発表できるレベルの
「定番」にはたどり着いていません。
勉強中です。
（大阪府／フクダ・ロングライフデザイン）

お客様との打ち合わせは、
社長夫妻（設計・コーディネート）で
じっくりと行うようにしている。
男女両面の見方をしながら進めることができるので、
結果として住まい手夫婦の満足に
応えることができているのではないか。
他に同じやり方で打ち合わせをしているところは
余り聞かない。
（鹿児島県／川路建設）

口で表現するのは難しいけど…、
木材屋が建てる家として、
手作り・手仕事の
味を出すことに
力を入れています。
（島根県／藤原木材産業）